

第29回 夕張川流域会議 フィールドワークの実施

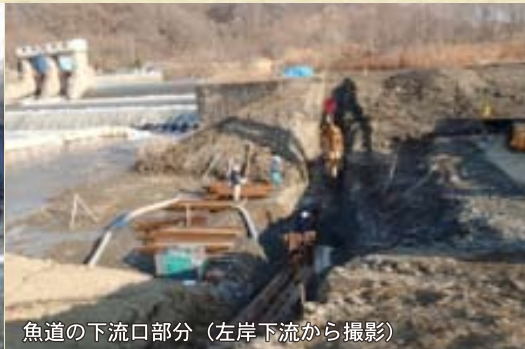
- 日時:平成26年11月20日(火) 13:15~16:25
- 場所:夕張川左岸高水敷整備工事現場、夕張シューパロダム

「参加者からは「感
激した。安心して米
作りができる。」「流
域住民は水の恩恵を
受けて暮らしている。
治水、利水と環境の
バランスを考え、ダ
ム放水も良い方向に
なるようにしてほしい。」といった感想
意見がありました。

今回の流域会議は、夕張川栗沢頭首工に建設されている魚道の工事現場と完成した夕張シューパロダムの見学をしました。夕張川流域では、栗山J.C、ハサンベツ里山計画実行委員会等の団体がサケ、放流を行っています。自然産卵箇所拡大を目的に現在、魚道の建設工事が行われています。参加者からは「こんなに大きな工事だとは思わなかった。」「来年3月の完成したら、また見学したい。」「という感想がありました。完成した魚道の管理を地元団体と連携して行うことも大切です。夕張シューパロダムは、平成7年に着工し、今年完成した多目的ダム（洪水調節、かんがい用水補給、水道供給、発電、河川の正常な流水維持の目的を持つダム）で流域の市町村に水の恵みをもたらします。ダムの大きさは、大夕張ダムの1・5倍で、ダム湖の総貯水量は約5倍になるそうです。参加者からは「感



魚道工事現場での説明の様子



魚道の下流口部分（左岸下流から撮影）



魚道の中央部付近（左岸側上流から撮影）



ダム堤体を下流から見る参加者



ダム堤頂から下流を見る（高さは110.6m）



勢いよくダム湖の水が放流されている

詳細はHPで! <http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/kasen/08isiken/02genba/23ebetu/yuubari/index.html>

市民が参加する川づくり

石組み、樹木を使って自然河川と里山を復元

- 日時:平成26年11月30日(日)9:00~15:00
- 場所:ハサンベツ川支川の「火薬庫の沢」



作業手順をきく参加者



ヨシの刈り取り作業



石を組み河床をあげる作業

11月30日に栗山町のハサンベツ川支流で、住民参加の川づくり・里山づくりが行われました。流域生態研究所の妹尾氏の指導のもと、栗山町役場職員栗山J.C、町民が中心になり札幌からのボランティアも参加して、川の中の石組み工事、ヨシの伐開作業をしました。呼びかけを行ったハサンベツ里山計画実行委員会では「将来は、川の環境、川の成り立ちがわかる川の学習の場になればいい。」と考えているようです。

川のアクセスを改善し、川利用の拡大

ボート発着場が
試験的に整備

ボート陸揚げ、降船で苦勞する様子



試験的に整備されたボート発着場



平成26年6月2日(月)に行われた「川の手引書」についての意見交換では、川の活動や環境学習のさらなる拡充という観点から、活動拠点へのアクセス整備が必要という意見が出されました。そこでコール地点として利用頻度の高い馬追橋上流右岸にボートの発着場を試験的に整備することになりました。写真のような河岸整形を行い、今後の土砂の堆積状況を見ていきます。

施工後、流域生態研究所の妹尾氏から頂いたアドバイス



- ◆ボート乗り場がもう少し下流方向に向いていないと泥が堆積してくる。
- ◆定期的な泥排除の作業がないとヤナギがすぐ繁茂する。
- ◆上流部をもっと切り込み、水流が入るようにする。(泥堆積を抑止するため)
- ◆来春以降、経過観察を続けたい。

夕張川の生き物たち

ヤツメウナギ

ヤツメウナギは、魚類でも最も原始的な円口類(無顎類)という仲間で、アゴ(顎)がなく、他の魚に吸いついて体液や血を吸うと言われています。エラ穴が7つあり目が「八つ」あるように見えるため、この名前がついたそうです。ヤツメウナギは海から川へ入り、卵を生み、幼生は川底の泥の中で成長、変態し目が現れて海へ下ります。近年、全道でヤツメウナギの数が激減していて、ヤツメウナギ漁で有名な江別でも「ヤツメ祭り」が平成14年から開催されなくなっていました。ヤツメウナギの生活史が全て解明されていないことから、はつきりとした原因はわかりませんが、泳力を持たず塩水に適応できない幼生が生息できる川の環境がなくなっていることが一因と言われています。



川遊び入門

川歩き(すべての川遊びは、「川歩き」から)

夕張川での川の学習は、川歩きから始まります。川遊びがはじめてという子どもも、そうでない子どもも、まず川を歩き水に慣れます。滑る所や深い所、水の流れの感覚をつかみます。石についた泥、ブロックがどんなに滑るかがわかります。魚採りや生き物しらべも、ボート遊びや川下りも、まずは「川歩き」が大切です。いつものお馴染みの川でも、歩くことで環境が変わっていることに気づいたり、新たな発見があるようです。

